

令和 8 年度 団体と議会の 意見交換会報告書

令和 8 年 4 月 6 日(月)、7 日(火)、8 日(水)、
16 日(木)、21 日(火) 開催



令和 8 年 4 月
幕 別 町 議 会

－ 目 次 －

1	開催状況	・ ・ ・ ・ ・	1
2	会議録（概要）	・ ・ ・ ・ ・	2 ～ 12

1 開催状況

開催日時	団体名及び会場	参加人数（人）
4月6日(月) 午後6時30分～	幕別町農業協同組合青年部・女性部 (幕別町役場3階AB会議室)	6人
4月7日(火) 午後2時00分～	幕別町老人クラブ連合会 (幕別町保健福祉センター研修室)	7人
4月8日(水) 午後2時30分～	幕別町民生委員児童委員協議会 (幕別町保健福祉センター多目的ホール)	11人
4月16日(木) 午後7時00分～	幕別町商工会青年部 (幕別町役場3階AB会議室)	6人
4月21日(火) 午後6時30分～	幕別町文化協会・幕別町スポーツ協会 (幕別町民会館2階講堂)	8人

2 会議録(概要)

【意見交換の内容】

【4月6日】幕別町農業協同組合青年部・女性部

【議員定数】

■ 減らすべき

- 人口が減っていくので、議員の数が減っていくのは仕方ない。青年部も昨年3つの支部を統合し1つにした。理由は人数が少なくなったから。以前は6名いた役員も現在4名しかいない。青年部の活動を変え、役割や負担を分散し、減らしている。議員も減るとなると、中身もそのようにやっていくと思う。どこかで減らさないといけない時がくる。減らすのは早いに越したことはない。今のうちに対策した方がよい。
- 資料を見ると、削減の理由に「意思決定の迅速化と議論の質の向上を図る」とあり、人数が減ると議論が早くなる。減っても質が落ちず、議論できるのが大前提。若者も少ない。出てくる方は50～60代が多い。定数削減は仕方ない。一人あたりの役割が重くなることに對し、効率化を図れるならいい。人数はどこが妥当なのかわからない。
- 前回の選挙は無投票で、減っても仕方ない印象。次の世代になってもらうための対策があるなら、現状維持でもいいが、興味を持ってくれるものがないなら、減らしても仕方ない。
- 将来的に人口が減っていくので、負担は増えるかもしれないが、人口に見合った定数にした方がよい。
- 人数（定数）を見て、音更町は減るというので、それでやっていけるなら、減らすのもよい。

■ 現状維持

- もし親が議員をやりたいと言え、やりたいことがあるのだからいいだろうと思う。自分たちの現役世代は定数を削減されると、一人あたりの責任がすごく重い。仮に報酬が上がったとして、議会に時間を取られ、仕事（農業）はできなくなる。例えば、その日にしかできない仕事で、逆に議会を休まないといけない状況もあり得る。報酬金額云々より、一人の責任の重さ。若い世代は定数を削減されると参加しないといけないという責任が重い。行かなければならないとなると兼業は無理。農業だと特に。仕事を辞めて議員にならないといけない。親世代ならいい。現役世代なら踏みとどまらせてしまう。

■ その他

- 17～19人が適正。17～18人に削減しようという考えだが、資料を見ると人口が近い七飯町は14人、中標津町が15人、新ひだか町が16人、なぜ17～18人になったのか。
- 人数はあまり減らしていかない方がよい。青年部の組織とは違う。数がいたほうが考え方が多様に出てくる。減らすのは慎重にした方がよい。
- 議会同士で意見交換をしているのか。私たちは十勝の女性部で町村ごとに意見交換をしている。ほかの町村と話したらいいと思った。

【議員報酬】

■ 増やすべき

- もっと色々な人になってもらおうとしたら、報酬は少ない。この金額で、札内の若い人が仕事を辞めて議員になれない。もっと増やすべき。日数的にはアルバイトとかすれば増やせるけど、30万円からという気はする。
- 21万2,000円は少ないと思った。やっていることだったり、自分の仕事と調整しながらこれしかもらえていないのかと思った。
- もし10万円上がるなら、議長も同じように上がる。21万2,000円は高い感じはしない。議員でも忙しかったり、そうでなかったり、それに合わせて報酬を変える形をとったらい。忙しい方はその分報酬を上げたらいい。これだけで暮らすには少ない。

■ その他

- 5～10万円上げると、委員長、副議長、議長も上がる。そうすると、5万円上がるのは、一気に上がる印象。新ひだか町と比べると、3～4万円上がる。その金額にした理由を教えてほしい。
- 議員になる人が少なく、これくらい上げないとなってくれないという話もされていた。この金額になって議員が増えましたとなればよいが、それでも増えないとなったら金額を変えることはあるのか。
- 議員は一年でどのくらいの日数の仕事をしているのか。個人差があると思うが、仕事の両立ができて議員をできるのは素晴らしいが、仕事をおろそかにするのはどうなんだろうか。定数が減って、責任が増えたなら議会に参加しないといけな。役割も集中する。報酬が上がったからという話ではない。農業従事者や経営者でない方なら金額の話は変わる。
- 自分個人では報酬はどうでもいいが、幅広い若い世代には報酬を上げて、プラスアルバイトでも食べていけるのをPRしないと。誰も町議がいくらもらっているか気にしたことがない。どう興味を持ってもらえるのか。フランクな呼びかけをするべき。色々な所で目につくようにやっていけば、なりたい人も増えてくる。
- 21万2,000円ももらっているんだと思った。ほかの町を見ると少ない。議長との金額の差はなぜか。
- ここに来て初めて金額がわかったが、まあまあもらっていると思った。私もこれくらい。

【議会活動】

- 議会だよりを見ることがあるが、結論まで読み込めない。簡潔に、こういう質問が出て、結果こうしたと気軽に見れるものがあると、この議員はこうやっていると感じやすい。字がいっぱい。
- 選挙に立候補する方を見て大変だと身近に感じたので、もし身内になるとなったら止めるかも。
- 息子がなりたいと言ったら、若い人を取り入れるという意味で出ればいいと思う。豊頃町では若い人、農家の人が入っているのを見ている。色んな意見が必要。落ちたら身内として恥ずかしいが、そこまで考えなければ出ればいいと思う。
- 自分の親が出るとなれば、いいと言う。私は兄弟で農家をやっているの、兄が出ると言ったら止める。

- 子育てが一段落したらいいのかなと思う。報酬云々ではなく、いずれそういう時期が来たらそういうこともしてみたい。
- 今後選挙活動はどう変わっていくのだろうか。SNS選挙などといったものは大変。どういう形が一番町民に見てもらって、アピールできるのかスマートなやり方があればいい。若い人が立候補するのに、選挙活動自体が一番ネック。
- 自分は小学校5～6年生くらいのときに子ども議会に出させてもらった。議会を広く知ってもらうために子ども議会はまだやっているのか。
- 議会がどう思って活動しているのか、自分もその場で話をしたい。
- 子どもができたばかりなので、子どもの屋内遊戯場を作るなりしてほしい。お金がないなら、どこかの施設を改装してほしい。幕別町内に何か所か立派なものが一つあるとそれも町の力になる。若い人を呼び込むためにも、子どもが楽しく遊べるところが欲しい。
- 今回のように議員と意見交換できる場があるのはすごくいい。ざっくばらんに議員と話せる場があれば、身近に感じる。困っていることも話せる。もっと身近になりたい。

【4月7日】幕別町老人クラブ連合会

【議員定数】

■ その他

- 議員定数の見直しの理由の一つとして「前回の町議会議員選挙が無投票であったこと」が挙げられているが、これを定数削減の直接的な根拠とするのはどうなのか。
- 無投票という事態を招いた真の要因は、定数の多さではなく、町民自身の町政に対する姿勢が「あなた任せ」になりすぎていることにある。
- 町民一人ひとりが「自分たちの町を作り、地域組織を守る」という強い意志を持たなければならない状況において、無投票を安易に定数削減の理由にすり替えることは、町民の無関心をさらに助長する危険性があるのではないか。
- 定数を削減することについては「人口が減ったから議員も減らす」という短絡的な思考で行うべきではない。定数削減は議員一人あたりの負担や責任を増大させ、結果的にさらに立候補のハードルを上げてしまう要因にもなり得るため、慎重な判断が求められる。

【議員報酬】

■ 増やすべき

- 地域経済が活性化し、町民の所得が向上するのであれば、それに伴って議員報酬を増額することには何ら異論はない。
- 多様な人材、特に現役世代や若年層を議会に引き入れるためには、彼らが安心して生活設計を描き、議員活動に専念できるだけの適正な報酬水準への増額が不可欠。
- 報酬の引き上げについては、「議員報酬は生活給ではない」という議会側の建前があるとしても、現実問題として「生活が成り立たなければ若い世代は選挙に出ら

れない」というシビアな実態を直視すべきである。

■ その他

- 議会から提示された資料は、過去の定数の変遷や他町村との比較といった、専ら「数字の羅列」による説明に終始しているが、それだけを基準に定数や報酬を議論すべきではない。
- 議論の入り口として数字をベースにすることには一定の理解を示すものの、町政を評価し適正なあり方を検討する上で重要なことは、幕別町の基幹産業である「農業」をはじめとする地域経済の実態である。
- 農業がいかなる形態で推移し、農協組合員等の経営所得がどのように変化していくのか、そして町議会と農協がいかに連携して地域防衛策を構築していくのかという、包括的な経済状況の分析が不可欠。

【議会活動】

- 基幹産業を担う者こそが率先して公の舞台に立ち、自らの手でより良い町や農協を作り上げていくべきであり、農業者をもっと議会に輩出するための意識改革が急務である。
- 議会における議論の進め方そのものは、傍聴した限りにおいて立派であると一定の評価をする一方で、議員間のコミュニケーションの質はどうか。
- 町政への無関心を打破するためには、議会側からの情報発信や広報活動のあり方を大きく見直す必要がある。活字を並べるだけでは読まれないため、町民が思わず目を向けるような見せ方の改善が必要。
- 「議会の活動が見えにくい」「議員が何をしているのか分からない」という声が依然として多い中、現在の議会日より等の広報紙は、文字が小さく高齢者にとって非常に読みにくい。
- 議員の顔と名前が一致しない。広報紙や選挙公報等においては、顔写真を大きく掲載し、プロフィールをより詳細に記載するなど、視覚的に分かりやすく親しみやすい工夫が不可欠。
- 広報紙に頼るだけでなく、議員自らが積極的に地域に入り込み、町民と直接対話する機会を増やさなければ、真の意味で「開かれた議会」を実現することは不可能。
- 議会の実情をもっと町民に知ってもらう努力を重ねることで、初めて「立候補してみよう」という意欲を持つ者が1人でも2人でも現れるものでは。
- かつてのように、議会終了後には酒席（反省会）を設けるなどして、膝を突き合わせて徹底的に議論し、人間同士の血の通った意思疎通を図る努力を議員自らが率先して行うべきである。
- 各種選挙における投票率の低下傾向に関しても、町民の意識低下が根底にある。町民は国政選挙に対しては一定の関心を示す一方で、身近な町政に対しては「議員に任せておけば特段問題は起きない」という根拠のない安心感や無関心を抱いている。これは、町民自身が「政治をつくっていく主権者である」という自覚を培う環境が極めて薄弱になっていることの証左であり、議会側からもこの無関心を打破するための積極的なアプローチが求められる。
- 近年はスマートフォンが普及し、LINEやメール等のデジタルツールを利用したやり取りが主流となっているが、画面上のやり取りだけで完結させてしまうと、自己の主張を発信するだけで満足してしまい、他者の意見に真摯に耳を傾け、相互理解を深めるプロセスが欠落してしまう。希薄なコミュニケーションは、「他人はどう

でもいい」「公のことは他人に任せておけばいい」という個人主義的な思考に繋がる危険性がある。

- 地域社会を支える様々な組織で「担い手不足」「組織の高齢化」が深刻に進行しており、これは議会が抱える「議員のなり手不足」問題と全く同根の課題である。だからこそ、議会だけが数字の辻褃合わせを行うのではなく、町政の中枢を担う議会が先頭に立ち、地域全体を巻き込んだ根本的な町民の意識改革と、持続可能な地域社会の体制づくりに真剣に取り組んでほしい。

【地域農業】

- 「あなた任せ」の風潮に関連し、幕別町の基幹産業である農業従事者の姿勢への懸念がある。
- 現在、幕別町内の農業経営は大型化が進み、一戸あたりの平均耕作面積は50ヘクタール近くに達するなど多忙を極めている。経営規模の拡大や多忙を言い訳にして、議会議員や農協理事といった「公の仕事」への参画を敬遠する風潮が蔓延していることは大きな問題である。
- 個人経営利益のみを優先し、地域社会全体の運営や公的な責務を他者に押し付けるような自己中心的な振る舞いは許されるべきではない。

【老人クラブ連合会】

- 同会はこれまで20年～30年もの長きにわたり、事務局運営を外部に頼らず自らの手で行ってきた道内でも稀有な誇るべき組織であったが、会員の高齢化が著しく進み、目的である「会員が元気で長生きすること」を組織として維持・運営していくことすら困難になりつつある。
- 現在、60代は現役で働いているためクラブに加入せず、70代、80代にならなければ入会しないという構造的な高齢化問題に直面しており、来年度を目途に自前での運営を諦め、事務局機能を社会福祉協議会へ委託せざるを得ない状況まで追い込まれている。

【4月8日】幕別町民生委員児童委員協議会

【議員定数】

■ 減らすべき

- 報酬議論の前に、まずは定数をできる限り（例えば現状の19人から15人へと）減らすべきである。定数を減らし「選挙で数人が落ちる」リスクを作ることによって、議員は生き残るために必死になり、一人ひとりの訴え方や町民へのアピールが劇的に変わるはずだ。甘えを捨てて競争を生むことこそが議会の質を高める。
- 安易な考えで議員になるのは困るが、思い切って定数を減らし、その分報酬を手厚くして「やる気のある若者が生活を懸けて立候補できる環境」を作るのも一つの手ではないか。

■ その他

- なぜ議員のなり手が不足しているのか、根本的な原因を議会はどう分析している

のか。単なる報酬や定数の問題ではないのではないか。

【議員報酬】

■ 現状維持

- 他町（音更町）と比較しても、幕別町は自主財源の割合が低く、税収そのものに大きな差がある。公務員の給与すら上がりにくい時代に、この厳しい財政状況を見捨てて議員報酬の引き上げを語るのには町民の納得を得られない。

■ その他

- 人口や面積だけを理由に報酬の引き上げを議論しているようだが、民間企業であればまず「自社の収支（町の財政状況）」を見極めるのが当然である。
- 議員報酬の算定基準を、行政の最高責任者である「町長の給与」に掛け合わせる（原価方式）のは、議会側に都合の良い計算ではないか。首長と議員では立場も責任の重さも異なり、基準とすることに率直な疑問を覚える。
- 原価（時間コスト）から報酬を計算するというのなら、本会議や委員会に出席した時間だけでなく、「日々の議員活動」を一人ひとり明確に記録・管理すべきである。
- 民間企業であれば、どこで誰と会い、何をしたか「日報」で報告するのが当たり前。議員だからといって活動実態が見えないままで良いわけがなく、それができないなら原価計算など成立しない。
- 議事録等を確認すると、本来やるべき幅広い議会活動よりも、自分たちの報酬や定数に関する議論（運営委員会や協議会など）に1年で40回近くもの膨大な時間を割いているように見える。町民の目から見て、優先順位が間違っていないか。
- これまでの町民アンケートや意見交換会は、参加者の80パーセントが50代～70代以上で占められており、これで「民意を聴いた」とは言えない。
- これから実際に税金を払い、まちの将来を背負っていくのは20代・30代の若者たちである。彼らの意見をしっかりと聴かずして、高齢層の意見だけで議会のあり方や報酬を決めてしまうことには強い危機感を感じる。
- 他町との単純比較ではなく「実績とビジョン」で語るべき。人口規模などで近隣町（音更町等）の横並びデータを出して、報酬や定数を議論するのは筋が違う。本来は「我々はこれだけの活動をし、これだけ町に貢献しているから報酬を上げてほしい」と実績で訴えるべきではないか。
- 議員の最大の役目は行政のチェックや調査研究だが、問題は「それをどう幕別町のまちづくりに役立てているのか」である。隣の音更町は道の駅や企業誘致で活性化している。町議会にはどのような「根本的なビジョン」があるのか、それを町民に示さずに報酬の話を行き交わせるべきではない。
- 若い人が議員にならない根本の原因は「生活が成り立たない」からではないか。知人の若手議員も、自身の給料に議員報酬がプラスされることでなんとか生活できている。
- 人口約4万5千人の音更町が定数18人で議会運営できるのに、幕別町で19人の定数が必要なのか。

【議会活動】

- 議会でも一度も一般質問をしない議員がいる。立候補して選ばれた以上、最低でも一度は質問に立ち、何を考えどう活動しているのかを示すべき。

- 議員が学校現場を回っている姿を見かけない。不登校問題など、教育現場の現状を知ることから「まちづくり」のヒントが見えてくるはず。他町では委員会で全校を回っている例もある。

【公共施設】

- 幕別町はパークゴルフ発祥の地だが、維持管理費を考慮し、少額でも利用料を徴収して財源に充てるべきではないか（入浴施設は値上げしているのに矛盾している）。

【4月16日】幕別町商工会青年部

【議員定数】

■ 現状維持

- 削減しなくていい。選挙があるかどうかは関係ない。選挙で優秀な人というのは、そうでありたいが優秀の尺度は違う。選挙で優秀な人を選んでいる訳ではない。19人で1人1票投じるのは、本当に自分たちが選んでいるのかどうかは難しい。若い人を出す、多様性をもつ、ICTとか難しい時代になってくる。19人でもいい。
- 現状維持でもいいのかなと。議員としてのやりがいと一人ひとり発言して頂いたうえで、私たちはこの人は頑張っている、やりがいがあるやっているとわかれば。平成5年から減ったとか全部資料見たが、それなりに勉強しないとこの会は難しい。若手もある程度勉強しないと難しい。昔の人達を作った歴史をわかっていないと、今発言したとしても難しい。町民の声を第一に頑張って頂きたい。定数は19人で問題ない。
- やり遂げたい意思、一人ひとりが熱い気持ちある。一人でも欠けると議会が欠ける。全力で取り組んで頂いて、かつ報酬が払われているのが前提となっている。今のまま維持して報酬上げるのは、昨今値上がり傾向で仕方ない。その代わり、この人数で全員が同じ熱量でぶつかり合い、活発な意見交換をして町民から意見を吸い上げてくれればより良いものができる。全員が100パーセントのパッションとなって議員定数を削減したら熱量は減る。性善説だが、そのメンバー減るのはもったいない。

■ 減らすべき

- 見栄えは、報酬増やして削減した方がいい。報酬増やして現状維持は見栄えが悪い。定数は、音更より多いのはちょっと、人口多いので。
- 定数は、選挙になっていない現状を見ると競争があった方が優秀な人がなってくる点では減らした方がいい。

■ その他

- 我々現役世代が議員になって、家業をやりながらできるものなのか？経営者以外は休みとらないと。議会の内容をコンパクトにしようとかウェブでやるとか、若い世代が参入できるようなアプローチの仕方を。

- 資料に全国の議員定数の表があるが、議員の年齢の見方はないのか？年齢層の幅があった方がいい。30代から40代が多ければ意見頂いて、定数少なければ若い人の意見を吸える一人がいたら議員定数を削減できる。逆にいっぱいいるなら議員定数はもっとあってもいい。

【議員報酬】

■ 上げるべき

- 若い人がなれるのが大事。金額の幅はわからないが、経営者だけでなく、そうでない人も議員になれる報酬が大事。

■ その他

- 現在の議員報酬の金額は生活を維持できないほどの低水準との認識か。350万円で子どもを育てながらの世帯はかなりあって、報酬が生活を維持できないほどの低水準と考えていることがびっくりした。
- 議員活動にコストがかかっていると思うが、実際どの位かかっているのか。月平均、年平均でもいいが、データをとっているか。数字で示してくれる方がいるなら聴きたい。
- 頑張っている方には払うべき。ご不満でこの月額の問題になっていると思う。
- 話の発端は2つあり、前回無投票となり手不足。なり手不足と定数はリンクしている。報酬を変えることで、なり手を増やせないか。そこがクリティカルでないから議論が長引いている。議員は優秀な人になってほしい。自分みたいな若い世代ももっとなってほしい。人数も偏るのではなく色々な世代、若い人になってほしい。その観点で報酬を上げてほしい。定数は、選挙にならないなら減らして、優秀な人になってほしい。報酬よりも面倒くさいとか責任感がのしかかるのがわかる状態だから、若い人がなっていない。報酬を上げたら、そのバランスが崩れて出る可能性ある。若い人がもっとなりたいと考えてもらうことが一番大事なので議論してほしい。(若い世代とは)20～30代、40代。
- 打ち出し方を変えるべき。21万2,000円で実際は忙しい。勉強しないといけないということ。年収350万円、議会に拘束されるのが52～58日、それ以外は色々できる。議会が変わるのが難しいのなら、感じ方を変えてもらうしかない。議員は毎日8時に役場に行き5時まで出勤してと言う人もいる。
- 議員になったら立場ができ、立場をもって何かを言うことになる。個人的に自分の活動とは相性が悪い。地域を良くしたいとか自分にできることはやっている。議員になってやれることが増えるのか。監視とか町政に対する機能は客観視すると自分ではないかな。報酬高くても、気持ちは変わらない。
- 青年部で町のことで考えてやっている。仕事しながら、青年部は無償。無償だけど子どもたちを喜ばせたりできる。議員はお金を頂いている。自分は行政に興味なく、知りもしなかったが青年部の部長をやらせて頂き、議会の人と話をすることもあり、若い人になってもらいたい、知ってもらいたいと言うが、たぶん興味ない。議員にこれやってほしいと思っても、議員と知り合いでないとしてもらえない。若い人は若い人に言いやすい。正直、議員になりたい意思はある。青年部の皆は仕事ある日でも休んでイベントしたり、イベントある日は自分の子どもたちとも遊ばず、子どもたちのために無償でやってる。議員よりやっていることはすごいと思う。

【議会活動】

- 議員活動の中で住民の声を聴くと言うが、どれ位の年齢層、頻度なのか。対話されている方はかぶっていないのか。相談を受けたら町政に何か反映されるのか。事例を教えてほしい。すごい仕事なんだと直結していない。結局、何をやっているのかとなる。
- どうやったら若手の人がなってくれるか。相談は皆さんされている。回数、人数とか記録に残っていない。一般質問は表に出てくるが、結果どうなったか。その議員が言って、この結果になったというストーリーがわからない。一般質問を傍聴したが、気持ちよく帰れたことがない。行政も色々事情があり、かわされたりする。うまくいった時のストーリーが見えたら。一般質問以外、何しているのかわからない。どの位の負担感で50日位だと見えると自分の仕事と折り合いつけそうだとかなる。情報の開示が大事、若年層に届かせないとなってももらえない。

【学校教育】

- 子どもたちから「給食が少ない、3年生がお腹が減った」と帰ってくる。無償化になるより、500円払うから増やしてくれないかと単純に思う。

【4月21日】幕別町文化協会・幕別町スポーツ協会

【議員定数】

■ 減らすべき

- 文化協会は予算が削られ、事業の自己負担が増えている厳しい現状がある（年間予算約30万円）。町全体の人口や税収が減り、各団体も予算削減に耐えている中で、「定数は維持し、議員報酬だけを上げる（予算を増やす）」というのは町民の理解を得られないのではないか。「報酬を上げるなら、それに直結して定数を減らす」のが現実的な選択である。
- 人口減少社会において、定数を減らさずに現状維持とする考え方には無理がある。「19名から15名に減らすから、浮いた予算で報酬を上げてほしい」といった議会側の明確な覚悟やリーダーシップを持った提案が見えない。
- 人口減少や税収減が進み、各団体の予算や補助金も削減・負担増を強いられている中、議員定数を維持したまま報酬だけを上げることは町民の理解を得られない。「報酬を上げるのであれば、それに合わせて定数を削減（例：14～15名程度に）し、予算の総枠を抑えるべき」という意見が強く出された。

■ その他

- 議会内で結論が出なかったために町民に意見を聴いているのか。結論が出なかった理由は何か。
- 若い人に出てもらうための環境整備として「兼業の禁止規定」などが壁になっている。この点について議会はどう考えているか。
- 「人口が近いから」「他町がこうだから」という他自治体との比較（横並び）で人数や報酬を決める姿勢には違和感がある。幕別町独自の議会のスタイルを模索す

るべきである。

- 若者や現役世代が立候補できない最大の理由は、現業（仕事）との両立が困難（法令上の制限や時間的制約）であるため。単に報酬を30万円前後に上げたとしても、仕事を辞めてまで立候補する若者が出てくるとは考えにくい。

【議員報酬】

■ その他

- 町民から見て「議員が何をしているか見えない」ことが問題。報酬を上げれば活発に活動できるのか。新人議員の意見を聴きたい。
- 議員報酬は「生活給」ではなく「活動に対する対価」であるという前提を共有すべき。しっかりとした活動をして町民が納得すれば、報酬増額には賛成できる。
- 議員報酬はあくまで「議員活動に対する対価（職務遂行の対価）」であり、サラリーマンの「生活給」とは異なるという認識を持つべきである。

【議会活動】

- 年4回の定例会ではなく、「通年議会」を導入すれば議会はより活発化し、行政に対するチェック機能も強化される。定数や報酬の議論と併せて検討すべきである。
- 議会や議員が町民の納得する活発な活動（政策提言、行政のチェック機能の強化、税収を増やすための施策推進など）を行い、結果を出しているのであれば、町民は気持ちよく報酬増額に賛成する。現状は議会の活動が見えづらい。

【当日の写真】



【4月6日】幕別町農業協同組合青年部・女性部



【4月7日】幕別町老人クラブ連合会



【4月8日】幕別町民生委員児童委員協議会



【4月16日】幕別町商工会青年部



【4月21日】幕別町文化協会・幕別町スポーツ協会